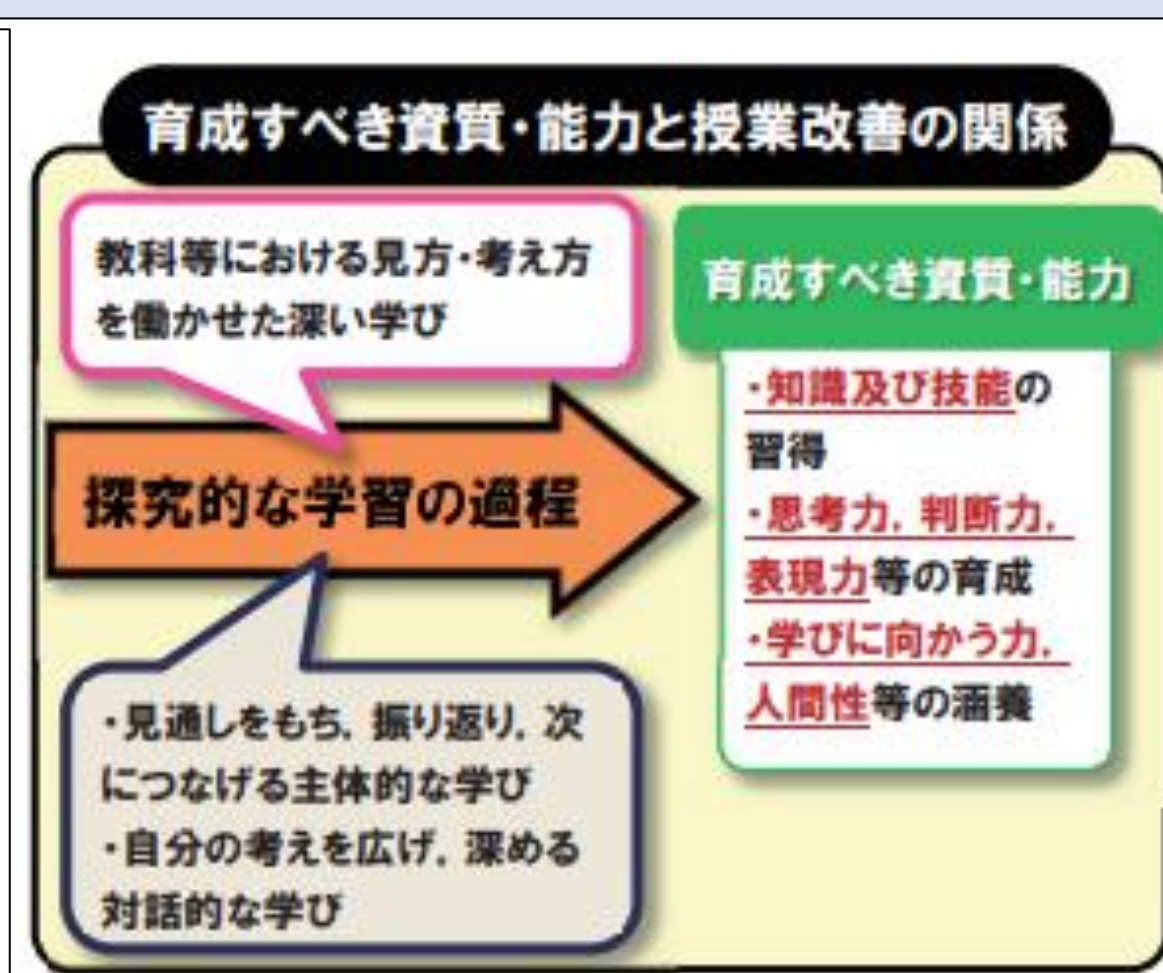
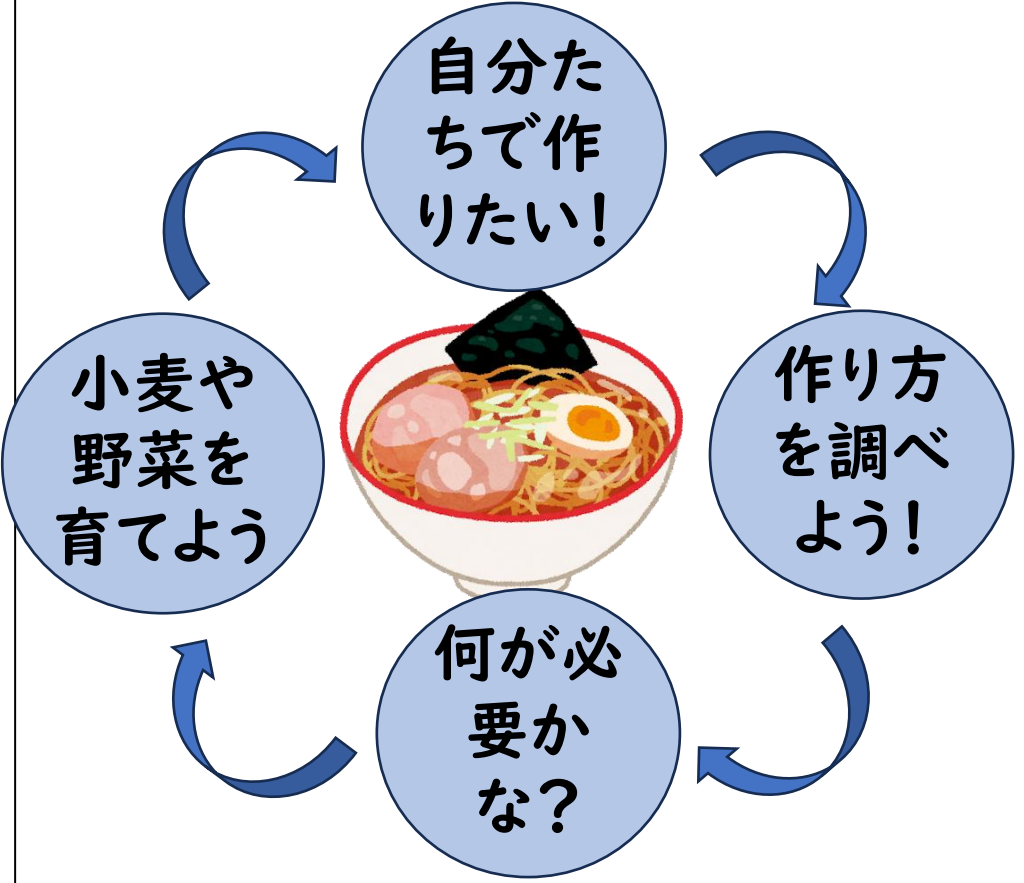


教科の授業における探究的な学習とは ～「探究のレベル」の視点での授業づくり～

信州大学教育学部附属長野中学校 令和6年度研究部 発表者 丸山進一

1 研究動機

【総合的な学習の時間】
・(例) ラーメンを作ろう!!



社会科：ラーメンを通して捉える世界各地における人々の生活

イタリアの気候だとトマトやオリーブがよく育つよ!

フィジーは熱帯だから冷たいスープにしよう!

ペルーは高地でアルパカを飼育している。アルパカ肉をトッピング…?

サウジアラビアは社会の習慣として入り口は男女別にする必要がある!

自分たちが考えたラーメンを家庭科で作ってみたい!

動機①
総合的な学習の時間の授業に限らず、どの教科の授業においても探究的な学習を具現したい

動機②
・教科の見方・考え方を働かせ、教科の資質・能力を身に付ける探究的な学習を具現したい

2 研究の方法

- ①白井(2022)を手がかりにし、「探究のレベル」と「探究の方法論」を基に、探究的な学習を捉える
- ②教科において「探究のレベル」を意識した授業づくりを行い、実践する
- ③「探究のレベル」の視点から授業を分析する

2 探究的な学習を捉える

探究のレベル

「探究」のレベル	問い	手続	解法
①確認のための探究 (confirmation inquiry) 前もって結果が分かっている場合に、活動を通じて原理を確認する。	教師	教師	教師
②構造化された探究 (structured inquiry) 与えられた手続きにしたがって、教師が示した問いについて実験する。	教師	教師	
③指導された探究 (guided inquiry) 生徒が自分でデザインしたり、選択した手続を用いて教師が示した問いについて実験する。	教師		
④オープンな探究 (open inquiry) 生徒がデザインまたは選択した手続を用いて、生徒が立てた問いについて調査する。			

カリキュラムにおける探究のレベルの位置付け

1	教科学習
2	
3	なし
4	総合的な学習の時間

教科はレベル1、総合はレベル4
レベル2～3は位置付いていない

1	教科学習
2	
3	総合的な学習の時間
4	

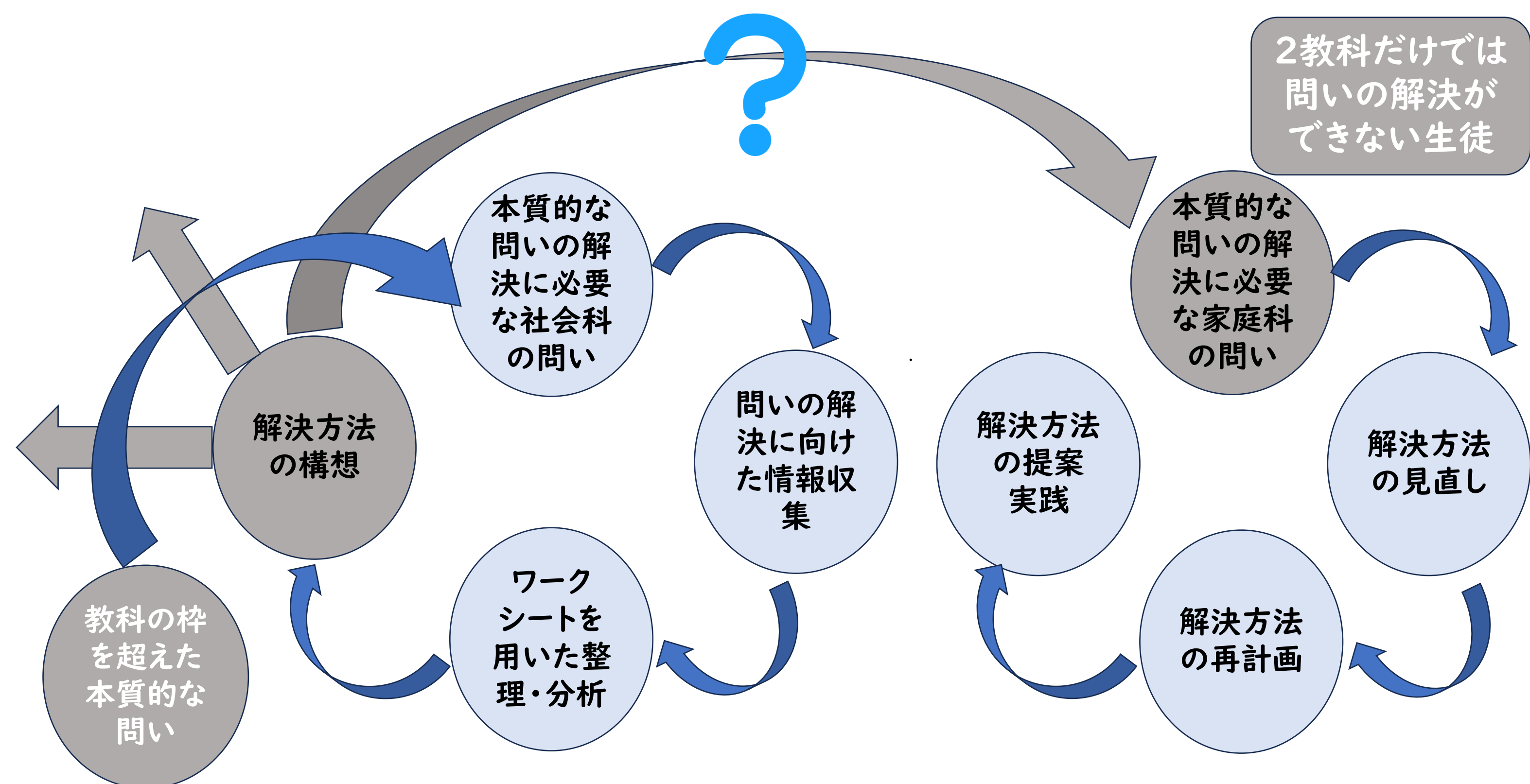
教科でも総合でもレベル1～4が位置付いている

探究の方法論

- ・教科の見方・考え方の働かせ方
- ・問いの立て方
- ・仮説、予想、の仕方と見通しのもち方
- ・ニーズ調査、問題定義、アイディア発想、プロトタイプ作成の仕方

3 探究的な学習を具現する授業づくり

学習問題	南堀地区の人々が、よりつながりをもつために、私たちはどのような活動ができるのだろうか
学習課題	生徒自ら設定する
結論	生徒によって異なる。 例：地域の回覧板を通して様々な年齢の人に広報を行い、老人福祉施設で行われる交流会に参加する。



分析
・各教科等で育成を目指す資質・能力を基に、教科横断的な視点で「教科の見方・考え方の働かせ方」を習得・活用する学習の構想が必要

学年	学習内容	探究のレベル
1学年	・主に小学校算数科で学習した比例と反比例について、変域を負の数にまで拡張する	1 変域を負の数にまで拡張する学習で、学習問題、学習課題、結論を教師が主導する
2学年	・比例の学習の発展として、変化の割合に着目するなど、文字を用いた式によって関数をより深く学習していく	2 比例学習の発展として、学習問題、学習課題は教師が主導し、導かれる結論は生徒に委ねる
3学年	これまでの学習の上に立って、関数関係に着目し、その特徴を表、式、グラフを相互に関連付けながら、変化の割合やグラフの特徴などの関数の理解を一層深める	3 学習問題は教師が設定するが、これまでの学習を生かして、学習課題や導かれる結論は生徒に委ねる
全学年	「算数・数学の自由研究コンクール」の構想	4 いろいろの事象の中から、自ら問いを立て、追究方法を決め、結論を導き出す

分析
・学年によって探究のレベルが異なる教科もある。一方で、単元の中で探究のレベルが異なる教科もあるため、学びの系統性を見いだすことが必要

4 研究の結論・課題

【結論】教科で育成を目指す資質能力を基に、学びの系統性を見いだすことが必要である。そのために、「探究のレベル」で学習展開を見ることが有効であり、教科横断的な視点で「各教科等の見方・考え方の働かせ方」を習得・活用する学習を構想することが大切である

- 【課題】**
- ①すべての教科の授業において有効であるかどうかを明らかにすること
 - ②探究の方法論を、教科横断的な視点で習得・活用する学習を構想すること